

## 2025（令和7）年度入学試験問題

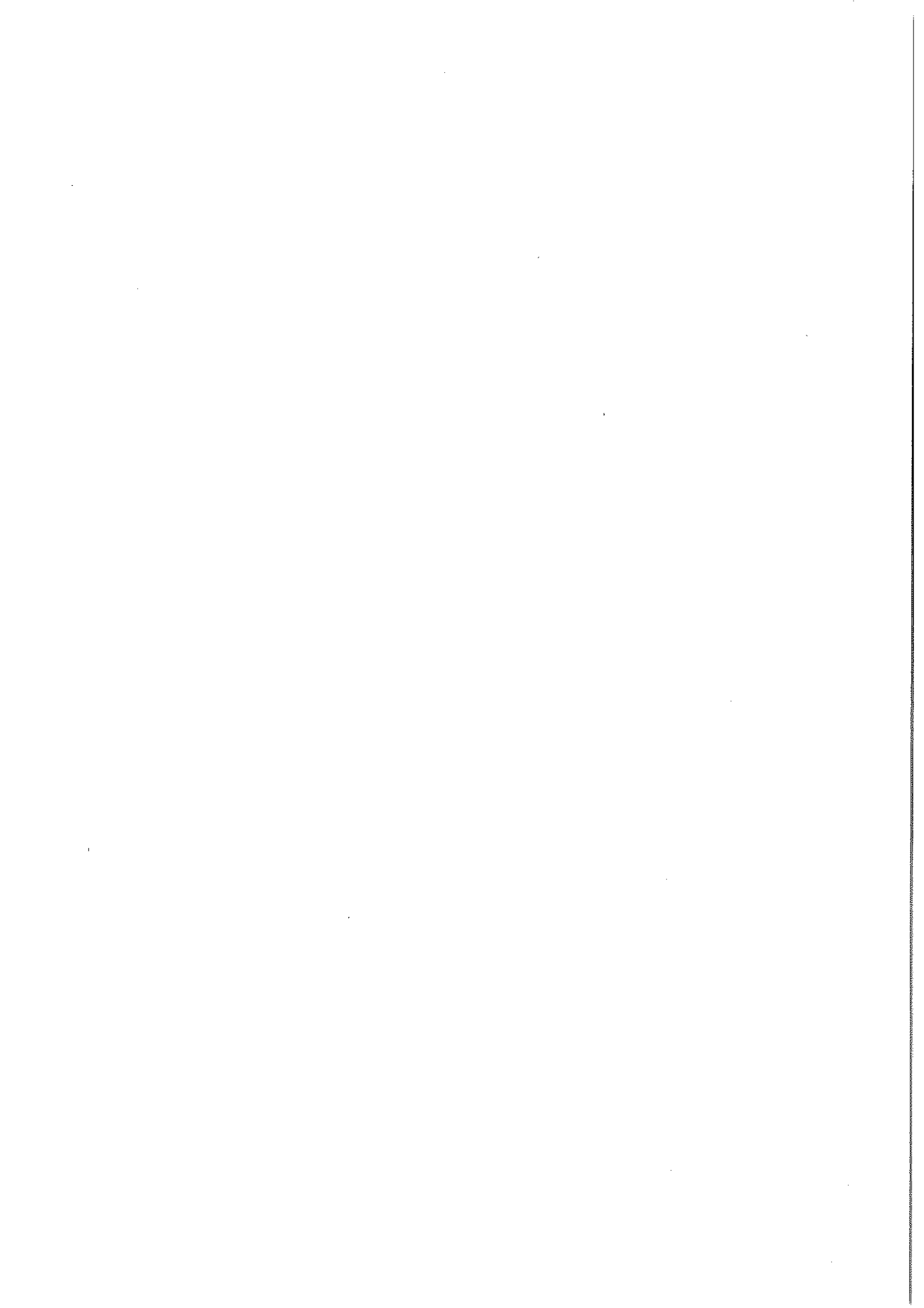
# 世界史

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で28ページです。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は、設問に従って、該当する解答欄にマークしてください。なお、すべてマーク解答問題です。解答にあたっては、必ず黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
  - (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し、該当するマーク欄を正確にマークすること。  
(機械処理上、非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
  - (2) 解答科目欄は、解答する科目を一つ選び科目の下のマーク欄を正確にマークすること。  
マークされていない場合または複数の科目にマークされている場合は、無効となります。
  - (3) 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
  - (4) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
  - (5) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないこと。
  - (6) 解答用紙の解答欄をマークするときは、次の（例）のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

（例） ③と解答する場合

マ ー ク 解 答 欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。



- I 以下の「ドミニオン」の歴史に関する文章を読んで、〔設問1〕～〔設問20〕に答えなさい。解答は解答欄  ～  にマークしなさい。

イギリスは17世紀初頭にヴァージニア植民地を開いたのを皮切りに、周辺に植民地を広げた。1665～1667年の戦争で  の植民地を奪取し、その中心都市をニューヨークと改称している。18世紀に入ると、 と並行して1702～1713年にはアン女王戦争がおき、その戦後、イギリスはアカディア・ニューファンドランド・ハドソン湾地方を  から獲得した。さらに  と並行してジョージ王戦争（1744～1748年）、 とほぼ同時期にフレンチ-インディアン戦争（1754～1763年）がおき、1763年のパリ条約で、イギリスは、カナダとミシシッピ川の東側の一帯も獲得した。

イギリスがこれらの戦争で優勢だった背景には、国債の発行をつうじた戦費調達が比較的うまく機能していたためという指摘もある。しかし国債の利払いや償還は、国家財政によって賄う必要があるため、徴税強化も必要だった。イギリス政府は、本国における関税・地租・消費税などの徴収に加え、北アメリカ植民地住民への課税も強化しようとした。これに対する反発から、北アメリカでは独立の機運が高まり、1776年には  を中心に起草された「独立宣言」がフィラデルフィアで発表された。イギリスは独立の動きを軍事的に制圧しようとしたが失敗し、1783年に独立を承認した。こうして13のイギリス植民地はアメリカ合衆国（以下、「アメリカ」と略記）として独立したが、ニューファンドランドやカナダなどはイギリス領として残った。

カナダ植民地のなかで、セントローレンス川下流域のローワー-カナダとよばれた地域では非イギリス系の住民が多数を占めており、また上流域アッパー-カナダに住むイギリス系住民のなかにも、イギリス本国政府の植民地政策に反発する人びとがいた。こうしたなか、1838年に総督としてイギリスからカナダ植民地に赴任したダラム卿は、1832年の第1回選挙法改正の際の法案起草者の1人であり、政治改革に熱心な政治家だった。彼は本国政府に対し、カナダに一定の自治を認めるようもとめる報告書を提出した。この報告書をうけて、イギリスではカナダの自治領化へ向けた議論が始まった。当時イギリスでは、レッセフェール

思想が俗流化して広まりつつあり、政府による民間経済への干渉を否定し、財政支出も抑制的であるべきだとする「安価な政府」論が台頭していた。カナダ植民地への自治権の移譲は、統治の経費を現地に肩代わりさせることにより、本国政府の財政負担軽減につながりうるので、こうした「安価な政府」論の観点からも是認しうるものだった。1848年、カナダ植民地に内政に関する自治権が認められた。さらに1867年、イギリス議会で成立した英領北アメリカ法により、カナダ植民地と、近接するノバスコシア・ニューブラウンズウィック両植民地などを併せた自治領カナダ政府が成立した。1871年にはブリティッシュ・コロンビア植民地もこの自治領政府に加わったが、大西洋側の島であるニューファンドランド植民地は1949年まで加入しなかった。

北アメリカ13植民地を失ったことでイギリス政府が直面した問題の一つに、流刑囚の送致先問題があった。それまでイギリスで流刑となった囚人は、北アメリカに送られることが多かったのである。1786年、イギリス内相シドニー卿の提案により、オーストラリア東岸に新たな流刑地を設置することになった。これに先立ち、ロンドンの王立協会が派遣した太平洋地域探索のための学術調査団が、1769年にニュージーランド、1770年にはオーストラリアに上陸していた。この調査団が乗っていたのが軍艦エンデヴァー号であり、その指揮官は、一介の徒弟から海軍士官に出世した 7 だった。1788年1月26日、囚人を乗せた最初の船団がオーストラリアに到着し、イギリスによる本格的な植民活動が始まった。19世紀には、牧羊業の成功と金鉱の発見により、流刑者だけではなく自由移民も増加した。白人移民がオーストラリアの内陸へと開拓を進めたことで、 8 とよばれた先住民たちは迫害され、その人口は激減した。

19世紀中頃以降になると、オーストラリア・ニュージーランド以外のオセアニアの各地へも西欧諸国による進出が本格化し、タヒチは1847年に 9 a によって、フィジーは1874年に 9 b によって、マーシャル諸島は1885年に 9 c によって、それぞれ領有が宣言された。

1901年、6州からなる自治領としてオーストラリア連邦が成立した。同様に、すでに内政の自治を事実上認められていたニュージーランドも、1907年に正式に自治領となった。白人の移民が中心の植民地には大幅に自治を認めることが、イ

ギリスの方針となっていた。1910年には南アフリカ連邦も自治領として成立している。南アフリカでは、すでにケープ植民地が1872年に内政面での自治を認められていたが、1899～1902年の南アフリカ戦争<sup>(10)</sup>により、オレンジ自由国とトランスヴァール共和国が併合されたため、あらためて1910年に統治体制の再編がなされたのである。カナダやニューファンドランドを含め、自治を認められたこれらの地域は、「ドミニオン」とよばれた。

1911年にはカナダとオーストラリアに独自の海軍の創設が認められるなど、ドミニオンは、イギリス本国の指揮系統から独立した軍事力をもつようになった。1914年に第一次世界大戦が勃発すると、イギリス軍を支援するため、各ドミニオンはヨーロッパの戦線に派兵した。このうちオーストラリアとニュージーランドは連合軍を形成し、1915年のガリポリの戦いでは 11 軍と交戦した。こうした貢献により、大戦後のパリ講和会議に代表を参加させることが各ドミニオンに認められたが、まだイギリス代表団の一員としての参加だった。この会議によって国際連盟が設立されることになったが、この国際連盟からの委任という形をとり、イギリスは 12 など新たな支配地域を獲得した。さらにニューギニアとビスマルク諸島の一部はオーストラリアに、西サモアはニュージーランドに、そして南西アフリカは南アフリカ連邦に統治が委任されることになった。

1922年には、アイルランド自由国という新たなドミニオンが誕生した。アイルランド<sup>(13)</sup>に関しては、すでに1914年にアイルランド自治法がイギリス議会で成立していたが、大戦勃発を理由に施行が延期されていた。この延期への反発から1916年には武装蜂起がおき、これをきっかけにアイルランド独立運動が高揚していた。このためイギリス政府は北部アルスターを除くアイルランドに自治を認めることで事態の鎮静化をはかったのである。

イギリス本国と各ドミニオンの代表者が集った1926年の会議では、イギリスの元首相によって取りまとめられた、イギリス本国とドミニオンの関係を対等とすべきとする報告書が提出された。1931年の 14 は、この報告書の提言を再確認するものであり、これにより、イギリス国王を元首として戴きつつも、主権国家としての独立性が、ニューファンドランドを除く各ドミニオンに対して認められることになった。それまでイギリス本国とその海外領土を総称する際には、

「イギリス帝国」が使われていたが、これを機に「イギリス連邦（ブリティッシュ・コモンウェルス）」に改められた。1932年にはカナダでイギリス連邦経済会議が開催され、1929年10月のニューヨーク株式市場での株価暴落に端を発する世界恐慌への対応が話し合われた。<sup>(15)</sup>

1939年9月1日にドイツ軍が 16 に侵攻したことを受けて、イギリス・フランス両国がドイツに宣戦布告すると、アイルランドを除く各ドミニオンはイギリスに同調した。1941年12月には日本がアメリカ・イギリスに宣戦し、日本軍は アジア・太平洋地域のイギリス領へ次々に侵攻したため、イギリス連邦防衛のため、<sup>(17)</sup>イギリス軍のみならずオーストラリア軍とニュージーランド軍も日本軍と交戦した。1942年から1943年にかけては、オーストラリア本土のダーウィン周辺も日本軍による空襲を受けた。しかしその間にも、戦局は日本軍の劣勢に転じていた。1943年11月、イギリス首相チャーチルは、アメリカ・中国との首脳会談に臨んだ。これは 18 会談とよばれ、日本の敗戦を見越しつつ、将来的な対日政策を話し合うためのものだった。

第二次世界大戦においてアイルランドがイギリスに同調しなかったのは、すでにイギリス連邦から事実上離脱していたためだった。アイルランドでは、1937年に新憲法が公布され、共和制（イギリス国王を元首としない体制）に移行し、国名をアイルランド自由国からエールに改称することが決定されていた。しかしイギリスがすぐにはアイルランドのイギリス連邦からの離脱に同意しなかったため、形式的にはドミニオンの一つとみなしうる状態がなおしばらく続いた。アイルランドのイギリス連邦からの正式な脱退は、1949年とされる。

連合国側について参戦を表明したものの、南アフリカ連邦も第二次世界大戦への関与に積極的ではなかった。白人支配層のなかに親ドイツ派もいて、親イギリス派と対立していたことが理由の一つと考えられる。戦後、白人間の融和をはかる意図もあって、白人を優遇し、有色人種とくに黒人住民を差別する政策が次々と導入された。一連の差別的な政策は国際的な非難を浴び、イギリスをはじめイギリス連邦諸国からも批判された。こうした干渉を嫌った南アフリカは、イギリス国王を元首とする立憲君主制から共和制へと政体を変更し、1961年にイギリス連邦から離脱した。これらの人種差別政策は、1991年に 19 大統領の政権に

よって法律上撤廃された。

第二次世界大戦後、冷戦が構造化する過程において、カナダは1949年の北大西洋条約機構の創設に参加し、またオーストラリアとニュージーランドは、1951年に  と太平洋安全保障条約を締結するなど、いずれも西側陣営に属した。これらの3国では、現在にいたるまで、イギリス国王を元首とする立憲君主制が維持されている。ただしいずれの国においても、こうした体制を懐疑的に見る国民も多く存在しており、将来的な政体変更の可能性を指摘する声もある。

〔設問1〕空欄   に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ① a スペイン      b フランス
- ② a スペイン      b オランダ
- ③ a オランダ      b フランス
- ④ a オランダ      b スペイン
- ⑤ a フランス      b スペイン
- ⑥ a フランス      b オランダ

〔設問2〕空欄    に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ① a オーストリア継承戦争      b スペイン継承戦争  
c 七年戦争
- ② a オーストリア継承戦争      b 七年戦争  
c スペイン継承戦争
- ③ a 七年戦争                      b スペイン継承戦争  
c オーストリア継承戦争
- ④ a 七年戦争                      b オーストリア継承戦争  
c スペイン継承戦争
- ⑤ a スペイン継承戦争              b オーストリア継承戦争  
c 七年戦争
- ⑥ a スペイン継承戦争              b 七年戦争  
c オーストリア継承戦争

〔設問3〕空欄  に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①オーウェン      ②ジェファソン      ③トマス=ペイン      ④ジャクソン  
⑤ワシントン

〔設問4〕下線部(4)に関連して、この地域に位置する都市の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①オタワ      ②ヴァンクーヴァー      ③リッチモンド      ④デトロイト  
⑤ケベック



〔設問5〕下線部(5)に関連して、第1回選挙法改正（イギリス）についての説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **5** にマークしなさい。

- ① トーリー党内閣のもとで行なわれた。
- ② 腐敗選挙区が廃止され、新興の工業都市に議席が配分された。
- ③ 財産資格が緩和され、労働者階級の成人男性の多くが選挙権を獲得した。
- ④ 女性に関しては、30歳以上に限定して選挙権が付与された。

〔設問6〕下線部(6)に関連して、この考え方を18世紀に唱えていたフランス人の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **6** にマークしなさい。

- ① デカルト      ② アダム＝スミス      ③ コルベール      ④ テュルゴ
- ⑤ タレーラン

〔設問7〕空欄 **7** に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **7** にマークしなさい。

- ① クック      ② タスマン      ③ リヴィングストン      ④ ベーリング
- ⑤ スコット

〔設問8〕空欄 **8** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **8** にマークしなさい。

- ① マオリ人      ② クリオーリョ      ③ アボリジニー      ④ プール人
- ⑤ ムラート

〔設問9〕空欄    に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ① a ドイツ      b フランス      c イギリス
- ② a ドイツ      b イギリス      c フランス
- ③ a イギリス      b フランス      c ドイツ
- ④ a イギリス      b ドイツ      c フランス
- ⑤ a フランス      b ドイツ      c イギリス
- ⑥ a フランス      b イギリス      c ドイツ

〔設問10〕下線部(10)に関連して、イギリスの植民地相としてこの戦争を推進した人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①ジョゼフ=チェンバレン      ②グラッドストーン      ③デイズレーリ
- ④セシル=ローズ      ⑤ロイド=ジョージ

〔設問11〕空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①スペイン      ②イタリア      ③ロシア      ④セルビア      ⑤オスマン帝国

〔設問12〕空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①トルコ      ②イラン      ③イラク      ④シリア      ⑤アフガニスタン

〔設問13〕 下線部(13)に関連して、アイルランドについての説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **13** にマークしなさい。

- ①アイルランドは1707年にイギリスに併合され、連合王国の一部となった。
- ②アイルランドは1840年代にジャガイモの不作による大飢饉に見舞われ、これが海外への移民を促進した。
- ③アイルランドにおける1916年の武装蜂起では、イギリス政府に協力的なシン・フェイン党が標的となった。
- ④北部アルスター地方がアイルランド自由国に加わらなかったのは、連合王国内に留まりたいと考えるカトリック系住民がアルスター地方に多かったためである。

〔設問14〕 空欄 **14** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **14** にマークしなさい。

- ①九か国条約      ②ウェストミンスター憲章      ③バルフォア宣言
- ④再保障条約      ⑤サイクス-ピコ協定

〔設問15〕 下線部(15)に関連して、イギリスあるいはイギリス連邦の世界恐慌への対応についての説明として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **15** にマークしなさい。

- ①イギリスでは、1931年に失業保険への政府支出が増額された。
- ②イギリス通貨ポンド-スターリングの信用力を上げるため、イギリスは1931年に金本位制に復帰した。
- ③1932年のイギリス連邦経済会議では、イギリスとドミニオン諸国との間で貿易を促進する方針が決定された。
- ④イギリスにおける恐慌への対策は、マクドナルドを首相とする労働党内閣(1929～1935年)によって推進された。

〔設問16〕 空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①ベルギー    ②フィンランド    ③デンマーク    ④オーストリア  
⑤ポーランド

〔設問17〕 下線部(17)に関連して、日本軍の侵攻当時、イギリス領だった地域の現在の国名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①フィリピン    ②タイ    ③インドネシア    ④マレーシア    ⑤ラオス

〔設問18〕 空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①テヘラン    ②カイロ    ③ポツダム    ④ブレトン-ウッズ  
⑤ヤルタ

〔設問19〕 空欄  に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①エンクルマ    ②ピノチェト    ③デクラーク    ④アラファト  
⑤マンデラ

〔設問20〕 空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①チリ    ②日本    ③フィリピン    ④アメリカ    ⑤インドネシア

- II 以下の画家ダヴィドに関する文章を読んで、〔設問21〕～〔設問35〕に答えなさい。解答は解答欄 21 ～ 35 にマークしなさい。

わたしたちが美術館としてよく知る「ルーヴル」の歴史は、国王フィリップ2世<sup>(21)</sup>がパリ全域を囲む城壁を建設したことにその起源が求められると言う。フランスの王宮はもともとセヌ川の中州シテ島に置かれていたが、シャルル5世のとき、ルーヴルが宮殿として使用され始めると、やがてルイ14世<sup>(22)</sup>がヴェルサイユへ王宮を移すまで、長く王政の中心であった。王宮としての役目を終えたのちのルーヴルは、フランスにおける美術・芸術作品の所蔵および研究発展の拠点と位置付けられることとなる。宮殿内には王立アカデミーも設置され、サロンが開催されるなどした。「美術館」としてのスタートは、フランス革命下の1793年だが、作品の充実に寄与した人物のひとりがかのナポレオンであったと言う。以下では、今日「ルーヴル美術館」を代表する名画として広く知られる1枚、ノートルダム大聖堂<sup>(23)</sup>におけるナポレオンの戴冠式の様子を、縦6.21メートル、横9.79メートルという大型の画面に描き出した画家ダヴィドに着目し、その人生について、数々の作品とともに振り返ってみよう。

ジャック＝ルイ＝ダヴィドは1748年8月30日にパリで生まれたとされる。父親は鉄を扱う商人であったらしい。すると、石工の家系と伝わる母方から、あるいは芸術的な才を譲り受けたのだろうか。父親が亡くなったのちには、建築家であった母方のおじに引き取られ、そのおじの元で早くから才能を見出されて育った。やがて17歳になったダヴィドは王立絵画彫刻アカデミーに所属するなど、周囲の盛り立てもあり、画家としては順調なスタートを切ったように見える。

当時、アカデミーの学生にとって、いや芸術を志す若者たちにとって憧れの地といえばやはりローマであった。都市ローマは、依然として古代以来の芸術・文化の薫り高く、さらには14世紀にはじまる古典古代の復興を目指した文化運動<sup>(24)</sup>の中心地としても非常に魅力的だったからである。ダヴィドもまた、さまざまな美術様式を試しながら作品作りに挑み続け、3度の挫折を経ながらも、1774年にはついにアカデミーの賞を獲得してローマへと旅立った。受賞作は歴史画家たる彼の人生にふさわしく、25 の作品から主題をとったものである。物語の主人

公は、アレクサンドロス大王の死後、「後継者」を称する者たちの争いを経て成立したセレウコス朝シリアの王子アンティオコスである。王子は父王の妻、自身にとっては継母にあたるストラトニケに道ならぬ恋をし、それがために衰弱していた。息子を心配する父王は病の原因を探らせようと医師を頼むが、医師は病室に入ったとたんストラトニケとアンティオコスの様子から病の真の理由を悟る。ダヴィドの絵はまさにその瞬間を切りとったかのように印象的である。

留学先のローマにおけるダヴィドの生活はおそらく多忙であったろう。周囲のさまざまな芸術に触れつつ、数多くの作品を描き残している。そうしたなかパリへ送られた1枚の絵画に1778年作の「パトロクロスの葬儀」がある。パトロクロスはトロイア戦争の際、わけあって出陣を渋るアキレウスに代わって、アキレウスの鎧や武具をつけて戦闘に赴き、トロイアの王子ヘクトルに討たれて死んだ。この親友の死を悼み、嘆き悲しむアキレウスの様子をダヴィドは描いている。当該の絵に対するパリのアカデミーでの評判はあまり芳しくなかった様子だが、留学期間も終わりに近い頃、ナポリ近郊の古代遺跡の数々を訪れたとき、ひとつの転機が訪れたと後年ダヴィド自身は語っている。実際、留学の成果に手ごたえを得て帰国した1781年、ダヴィドはサロンに「施しを受けるペリサリウス」と題した1枚の作品を出品する。ペリサリウスとは、東ローマ皇帝ユスティニアヌスの対外戦争を大きく支えた武将であったが、廷臣たちの嫉妬から宮廷を追われ、幼子とともに物乞いをするほど身を落としていた。かつて栄華を誇った偉大な武将と、その彼に施しを与える女性、將軍を発見し驚く兵士の姿をシンプルな構図で描いたこの作品でダヴィドはアカデミーの準会員の資格を得ると、2年後の1783年には同じく古典の物語を出典に「アンドロマケの悲劇」と題する作品をサロンへ出品し、ついに王立アカデミーの正会員の座を手に入れた。

自身の成功の一方、時代が徐々に「革命」の空気をはらんでいく1785年、1枚の記念碑的作品が描かれる。タイトルは「ホラティウス兄弟の誓い」であり、ここにダヴィドはよく知られた古代ローマの物語に題材をとりつつ、祖国のため戦うことを誓い合ったホラティウス家の3人の兄弟たちと、彼らの傍らで複雑な運命を嘆く女性たちの姿を巧みに描き込んだ。ダヴィドは1789年にも同じローマの物語から、今度は共和政ローマの立役者となった「ブルートゥス邸に息子たちの

遺骸を運ぶ警士たち」を描くことになる。これらの作品を通じ、ダヴィドの名声はたしかに高まっていったが、自身の強硬な姿勢に対する反発もまたアカデミー内部に広がったようである。そうした複雑な空気のなか描かれた大作に「ソクラテスの死」がある。ギリシアを代表する哲学者が老いた片手を伸ばして今まさに毒盃を受け取ろうとしている。彼のもう一方の手は天を大きく指さし、何かを語らんとするポーズは誰もが一度は目にしたことのある作品ではないだろうか。

その後もダヴィドは古典をモチーフとして描いていくが、すでに多くの革命派とされる人々との交流も始まっていたことがうかがわれる。1793年には、ついに自身も属してきた王立アカデミーを特権団体のひとつとして廃止に追い込んでいったと言う。この時期のダヴィドの活動をよく表したのものとして、1789年の球戯場（テニスコート）における誓いの様子を描いた作品を挙げるができるだろう。1791年に依頼を受けて制作したものとされ、作品には当該時期の革命を代表する人物たちの多くが登場し、描かれている。もともと当初予定されていた油彩画としての完成を見ることはなく、全体像はペン素描の下絵から想像されるに過ぎない。とはいえ、仮に完成していれば、冒頭の戴冠式の絵を超えるスケールになっていたかもしれないと伝わる、相当に力をこめた作品であった。

その後の革命の進展はダヴィド自身にも影響したようだ。同じ時期に描かれたとされる有名な自画像では、こちらをじっと見つめる画家の視線が印象的である。一方で思わぬ閑暇を得たことからか、絵画の作風には古典への回帰もたしかめられる。代表作と言ってよいのが「サビニの女たちの仲裁」だろう。ローマの支配者となったロムルスは、あるとき建国の仲間たちが男性ばかりであることに気づき、一計を案じた。作品は、近隣のサビニ人を祝祭に招いたローマの男性たちが、祭りに同行した未婚の女性たちを自らの妻とした有名なエピソードに基づいている。女性たちを奪われ、怒りのままにローマを攻めるサビニ人と、それをなだめようと割って入る女性の姿が力強い。またほぼ同じころ、ダヴィドはもう1枚古典を主題とする作品を残しているが、こちらはレオニダス王率いるスパルタ軍がペルシア軍に敗れて全滅した前480年の 34 をテーマとしたものである。2つの絵画に込めたダヴィドの思いを解釈することは容易でないが、いずれにせよ先例のない主題に果敢に挑んだ意欲的な作品であることはたしかだろう。

そうしたなかダヴィドはついにナポレオンとの出会いを果たしていく。1796年、ナポレオンはイタリア遠征司令官としてオーストリア軍を打倒し、周囲の期待を集めた。イタリアへの同行を強く求めるナポレオンの誘いを断ったダヴィドであったが、おそらくは1797年末に描かれたであろう未完の1枚に始まり、やがて馬上に身をひるがえすナポレオンの雄姿で有名な「アルプス越えをするナポレオン」<sup>(85)</sup>など、数々のすぐれた肖像画をその手で生み出していくこととなる。それらの画家の活動の集大成とも言えるものが冒頭で取り上げた1804年の戴冠式を描いた作品であろう。ナポレオン自身「まるで絵画の中に歩み入ることができる」とまで評した1枚からは、稀代の英雄の姿とともにひとりの「革命」的とも言える画家の人生が浮かび上がってくるようである。

〔設問21〕 下線部(21)に関連して、この国王についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 

21
----

 にマークしなさい。

- ①第3回十字軍に参加すると、アイユーブ朝のサラーフ=アッディーンに勝利してエルサレムを奪還した。
- ②イングランド王ジョンから在仏所領の大半を奪い、神聖ローマ皇帝と結んだジョンをブヴィーヌの戦いで撃退した。
- ③アルビジョワ十字軍を派遣して異端とされたカタリ派を征服し、北フランスを王領に加えることに成功した。
- ④戦費を賄うため聖職者・貴族・市民の3身分からなる全国三部会をはじめて招集し、課税に対する同意を得た。



〔設問22〕 下線部(22)に関連して、この国王の治世についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **22** にマークしなさい。

- ① 幼少時代には宰相としてリシュリユールが活躍し、中央集権化政策と重商主義政策を積極的におし進めていった。
- ② 王権の強化によって政治的発言権を奪われた司法官や増税に苦しむ民衆らが蜂起し、ヴァンデーの反乱が起こった。
- ③ 宮廷生活のなかで演劇が発展し、悲劇ではモリエールとラシーヌ、喜劇ではボッカチオが3大劇作家として活躍した。
- ④ ナントの王令廃止により商工業を担っていた多くのユグノーが国外へと亡命したため、王国の経済は打撃を受けた。

〔設問23〕 下線部(23)に関連して、この大聖堂と同じ建築様式に属するものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **23** にマークしなさい。

- ① シュパイヤー大聖堂    ② ケルン大聖堂    ③ ピサ大聖堂
- ④ フィレンツェのサンタ-マリア大聖堂
- ⑤ コンスタンティノーブルのハギア-ソフィア大聖堂

〔設問24〕 下線部(24)に関連して、この文化運動についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **24** にマークしなさい。

- ①ギリシア出身のコペルニクスは天動説を否定して地動説を体系づけたが、教会により異端として処刑された。
- ②フランス国王フランソワ1世は、イタリアからレオナルド=ダ=ヴィンチをフランス宮廷に招へいした。
- ③ローマ教皇ユリウス2世は、ラファエロに命じてシステイーナ礼拝堂に「最後の審判」を描かせた。
- ④イギリス出身のエラスムスは「源泉に戻れ」という精神から、ラテン語原典による『新約聖書』を刊行した。

〔設問25〕 空欄 **25** には2世紀のローマで活躍したギリシア人著述家が入る。ギリシア語で政治家や将軍などの伝記を著し、随筆集『倫理論集』の著者としても知られるこの人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **25** にマークしなさい。

- ①スエトニウス    ②ストラボン    ③トゥキディデス    ④プリニウス
- ⑤プルタルコス

〔設問26〕 下線部(26)に関連して、アレクサンドロスについての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **26** にマークしなさい。

- ①アレクサンドロスはギリシア連合軍を破ると、スパルタをのぞいた全ポリスを集めてコリントス同盟を結成した。
- ②アレクサンドロスはダレイオス3世を破ってアケメネス朝ペルシアを崩壊させたが、ペルシアの支配体制は踏襲した。
- ③アレクサンドロスはインダス川流域にいたる大帝國を築きあげたが、遠征から帰国する途中のバビロンで没した。
- ④アレクサンドロスの名に由来するエジプトのアレクサンドリアには、大図書館を備えたムセイオンが建設された。

〔設問27〕 下線部(27)に関連して、「後継者」を意味する言葉はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **27** にマークしなさい。

- ①ウラマー      ②クリルタイ      ③クーリー      ④ディアドコイ
- ⑤ペリオイコイ

〔設問28〕 下線部(28)に関連して、前3世紀、この王国から独立したイラン系の人々が建てた国はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **28** にマークしなさい。

- ①アッシリア      ②バクトリア      ③新バビロニア      ④パルティア
- ⑤ササン朝ペルシア

〔設問29〕 下線部(29)に関連して、トロイアについての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **29** にマークしなさい。

- ①トロイアの遺跡は小アジア（現在のアナトリア半島）西北岸に位置している。
- ②トロイア支配下のポリス反乱をアテネが支援したことで戦争が起こった。
- ③トロイア陥落後の英雄遍歴を描いた『アエネイス』はホメロスの作品である。
- ④トロイアの遺跡を発掘したのはドイツ人の考古学者ヴェントリスである。

〔設問30〕 下線部(30)に関連して、この皇帝の対外政策についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **30** にマークしなさい。

- ①この皇帝は、カルタゴ故地に建国されたブルグンド王国を滅ぼして、北アフリカを奪還した。
- ②この皇帝は、オドアケルを倒し成立した東ゴート王国を滅ぼして、イタリア支配を復活させた。
- ③トレドを都にイベリア半島の大部分を支配した西ゴート王国は、この皇帝によって滅ぼされた。
- ④この皇帝は、北イタリアに建国したランゴバルド王国からラヴェンナを奪い、総督府を設置した。

〔設問31〕 下線部(31)に関連して、ローマの共和政についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **31** にマークしなさい。

- ①前7世紀にガリア人の王を追放したローマでは、共和政樹立を主導した貴族（パトリキ）が要職を独占したため平民（プレブス）は政治的平等と経済的改善を求めて闘うこととなった。
- ②貴族（パトリキ）と平民（プレブス）の対立を受け、前6世紀に民主的改革を実施したクレステネスはデーモス（区）を設置して血縁に基づく制度から地縁による新たな部族制を創設した。
- ③前5世紀のリキニウス・セクスティウス法を通じて慣習法がはじめて明文化され、貴族（パトリキ）によって独占されてきた法に関する知識が平民（プレブス）にも公開された。
- ④前3世紀のホルテンシウス法制定の背景には、旧来の貴族（パトリキ）に上層の平民（プレブス）を加えた新貴族（ノビレス）が政治の実権を握るようになったことが挙げられる。

〔設問32〕 下線部(32)に関連して、古代ギリシア・ローマの哲学についての記述として誤っているものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **32** にマークしなさい。

- ①自然現象を合理的な根拠で理解しようとするイオニア自然哲学からはタレースが出て、万物の根源を水とした。
- ②「イデア論」をとなえたプラトンは、選ばれた少数の有徳者が政治を担当すべきと考えて民主政に批判的であった。
- ③「万学の祖」と称されるアリストテレスの学問体系は、イスラームの学問や中世ヨーロッパのスコラ学に影響した。
- ④『自省録』を著わしたローマ皇帝マルクス=アウレリウス=アントニヌスは、エピクロス派の哲学者であった。

〔設問33〕 下線部(33)に関連して、この年に制定された憲法についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **33** にマークしなさい。

- ①この憲法には人民主権や20歳以上の男女普通選挙とともに大統領の直接選挙制が規定され、当時もっとも民主的であった。
- ②この憲法には人民主権や男性普通選挙、抵抗権などさまざまな基本的人権が盛りこまれたものの実施にはいたらなかった。
- ③この憲法は三権分立にもとづく立憲君主制を定める一方、一定額以上の納税者に参政権を与える制限選挙制度を採用した。
- ④この憲法は独裁を防ぐ目的から5人の総裁に対する行政権の委任を特徴としたが、ブルジョワジーを優遇する内容であった。

〔設問34〕 空欄 **34** に入る戦いはどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **34** にマークしなさい。

- ①カイロネイアの戦い      ②カタラウヌムの戦い      ③テルモピレーの戦い
- ④プラタイアの戦い      ⑤マラトンの戦い

〔設問35〕 下線部(35)に関連して、ナポレオンと同様、アルプスを越えてイタリアに入った人物たちの事績についての記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **35** にマークしなさい。

- ①象を率いてアルプスを越え半島に侵入したハンニバルは、前216年に南イタリアのカンネーでスキピオ軍に敗れた。
- ②アルプスを越えローマに向かったカール大帝は、800年のクリスマスの日
- に教皇ウルバヌス2世により戴冠された。
- ③神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世は北イタリアのカノッサで教皇インノケンティウス3世に謁見し、破門をとかれた。
- ④ヴァイマル公国の宰相であったゲーテはイタリア旅行ののち文学活動に専念して、ドイツ古典主義文学を大成した。

Ⅲ 以下の中国史に関する文章A～Cを読んで、〔設問36〕～〔設問50〕に答えなさい。解答は解答欄 36 ～ 50 にマークしなさい。

A モンゴル帝国では、その広大な支配地域において交通・交易が発達した。モンゴル帝国の一部として中国を支配していた元を北方に追いやった明は、陸路・海路の交易・貿易をともに厳しく統制・制限する政策をとったが、当初からこれに不満を抱く勢力が多く、特に16世紀以降には、交易・貿易の解禁を要求するとともに略奪や密貿易を行なう武装化した大規模な勢力・集団<sup>(96)</sup>が増加し、明の支配と治安は不安定化していった。明は1570年ころから政策を転換して、国境貿易や民間貿易を認め始めたが、貿易の利益を中央に吸い上げて財政と軍事の強化を図る政策に対しては、地方の既得権益集団の反発があり、また富の分配がゆきわたらず窮乏化した農村からは暴動や反乱が多く生じた。

明の交易規制緩和は、各地に武装化した商業交易集団の更なる形成と台頭を促すことにもなった。中国東北部の遼東半島では、明の富裕層向けの毛皮や人參の交易を行なう武装商業集団を統合した 37 a のヌルハチが勢力を拡大し、1616年に金（後金）を建国した。これを継いだホンタイジは、内モンゴル地域にまで進出して大ハーンの地位を獲得し、集団名を 37 b ，国名を清（大清）と改めた。李自成の乱によって北京が陥落して明が滅亡（1644年）すると、清は山海関を越えて北京に入り、その後各地の抵抗勢力<sup>(98)</sup>を平定しながら中国支配を確立し、さらに明の版図をはるかに越えて支配領域を拡大していった。

18世紀の清では、人口が増加し、国内での移民が多くなったが、その多くは貧しく、特に移民の集中した地域では、精神的・経済的な拠り所を求めて宗教結社・秘密結社に加入する者が多かった。清朝がそれらを反体制組織・邪教として弾圧する政策をとる中で、18世紀末には四川・湖北・陝西の境界の山間部で反乱<sup>(99)</sup>が起こった。この反乱は大規模化し、清朝は巨額の支出を強いられたばかりか、清朝正規軍（主力軍の「八旗」や漢人で編制した「40」）のみの力によっては平定することができず、郷紳と呼ばれる地元の有力者たちに自衛組織を作らせてその協力を得ることによって1804年ようやく鎮圧したが、これによって清朝が軍事力の独占状態を失い、各地に自立的な武力組織が形成された影響はきわ

めて大きく、以降の清の社会は大きく変動していくことになった。

アヘン戦争やアロー戦争を経て、列強による大清帝国の半植民地化が進むなかで、キリスト教の影響を受けた洪秀全は「上帝会」と称する宗教団体を組織し、当時の儒教的な社会秩序を激しく批判して理想社会の実現を唱え、反乱を起こして「太平天国」を称した。反乱は大規模化し、進軍した太平天国軍は [ 41 ] を占領してこれを都とし「天京」と称した。儒教的な社会秩序を正面から批判し、清朝打倒を明確に打ち出した「太平天国」による反乱は、単なる武力反乱にとどまるものではなく、清朝に甚大な危機感をもたらしたが、やはり清朝の常備軍のみで平定することはできず、地方の自衛組織の協力、 [ 42 ] などの漢人官僚が出身地の人脈を生かして組織した本格的な軍事組織の活躍によって、ようやく鎮圧することができた。

〔設問36〕 下線部(36)に関連して、16世紀に日本の五島列島などを拠点に活動した倭寇の頭目として知られる人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 [ 36 ] にマークしなさい。

- ①呉広    ②黄宗義    ③王直    ④秦檜    ⑤汪兆銘

〔設問37〕 空欄 [ 37 a ] [ 37 b ] に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄 [ 37 ] にマークしなさい。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① a ジュンガル      | b マンジュ (満洲)  |
| ② a マンジュ (満洲)  | b ジュンガル      |
| ③ a マンジュ (満洲)  | b ジュシエン (女真) |
| ④ a ジュシエン (女真) | b マンジュ (満洲)  |
| ⑤ a ジュンガル      | b ジュシエン (女真) |
| ⑥ a ジュシエン (女真) | b ジュンガル      |



〔設問38〕 下線部(38)に関連して、清朝の支配に対する抵抗・対抗勢力の記述として正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 **38** にマークしなさい。

- ①鄭成功は厦門や台湾を拠点に強大な海上勢力を築き清朝に対抗したが、雍正帝の在位中に平定された。
- ②呉三桂は雲南で独立勢力化し、広東・福建の勢力とともに「三藩の乱」を起こしたが、康熙帝の在位中に平定された。
- ③オイラトを率いたエセンは土木堡の戦いで勝利し（土木の変）、一時的に北京を包囲するほどの勢威を示したが、乾隆帝の在位中に平定された。
- ④仏教系の民間宗教を背景とした紅巾の乱は、雍正帝の在位中に平定された。

〔設問39〕 下線部(39)に関連して、終末論的な教義と信仰を有し、この反乱の基盤となった宗教の名称はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **39** にマークしなさい。

- ①太平道    ②五斗米道    ③マニ教    ④景教    ⑤白蓮教

〔設問40〕 空欄 **40** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **40** にマークしなさい。

- ①郷勇    ②緑營    ③団練    ④黒旗軍    ⑤捻軍

〔設問41〕 空欄 **41** に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **41** にマークしなさい。

- ①南京    ②洛陽    ③杭州    ④西安    ⑤上海

〔設問42〕空欄  に入る人物は、以降も清朝の官僚として、清の軍備強化を担い、北洋艦隊や軍港を整備し、日清戦争の講和条約の交渉にあたった。この人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①顧炎武    ②林則徐    ③康有為    ④梁啓超    ⑤李鴻章

B 清は康熙帝の時代に黒竜江（アムール川）方面地域に進出するロシアと交渉し、1689年に  で国境を画定し、乾隆帝の時代には新疆を支配下に組み入れた。

19世紀になると、クリミア戦争に敗北したロシアは、東方への進出を図り、アヘン戦争や太平天国により弱体化した清と交渉し、1858年には  によって黒竜江北岸を、1860年の北京条約によって沿海州地域を獲得することに成功した。

新疆は乾隆帝の時代に新しく征服された地域であり、トルコ系のムスリムが多く居住していたが、清朝の支配力が弱まると、大規模な反乱が起こり混乱状態に陥った。コーカンド-ハン国出身の  が新疆に進出して独立政権を樹立すると、トルキスタンや中央アジアへの侵攻も進めていたロシアは、新疆のイリ地方を占領した。これに対し、清朝から派遣された  が軍を率いて新疆の奪還を進め、 が死去した1877年には新疆の大部分を回復した。1881年には、イギリスとフランスの仲介によりロシアのペテルブルクでイリ条約が結ばれ、イリ地方の大部分は清に返還されることとなった。

〔設問43〕空欄 **43 a** と **43 b** に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄 **43** にマークしなさい。

- ① a アイグン条約                      b ネルチンスク条約
- ② a ネルチンスク条約                b アイグン条約
- ③ a アイグン条約                      b キャフタ条約
- ④ a キャフタ条約                      b アイグン条約
- ⑤ a ネルチンスク条約                b キャフタ条約
- ⑥ a キャフタ条約                      b ネルチンスク条約

〔設問44〕空欄 **44** に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **44** にマークしなさい。

- ①プガチョフ      ②イェルマーク      ③ヤークーブ=ベグ
- ④ラクスマン      ⑤フレグ

〔設問45〕空欄 **45** に入る人物の名はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **45** にマークしなさい。

- ①曾国藩      ②袁世凱      ③張作霖      ④左宗棠      ⑤張学良

C 清は、アヘン戦争でイギリスに敗れた結果、1842年の南京条約で、複数の都市の開港、香港の割譲、賠償金の支払いなどを認めさせられ、翌1843年には、さらに領事裁判権・協定関税制・片務的最恵国待遇などを認めることになった。1844年には、アメリカ合衆国と **47 a** , フランスと **47 b** を結び、イギリスと同様の権利を認めることになった。さらにアロー戦争（第2次アヘン戦争）で英仏連合軍に敗れた結果、1860年の北京条約では、外国使節の北京常駐や外国人による税関の管理などについても認めざるを得ない状況に追い込まれることとなった。

ペリー来航後、1854年の日米和親条約の締結を経て、1858年に締結された日米修好通商条約もまた、領事裁判権や協定関税制などを認める不平等条約であった

が、倒幕を果たして成立した明治政府は、欧米列強に倣った近代化と対外政策を追求し、その過程で清との緊張を高め、衝突に至ることになった。

1871年、日本と清は、対等の条約である日清修好条規を締結し、正式の国交を樹立した。しかし、日本が、台湾に漂着した琉球島民が殺害されたことを理由として1874年に台湾出兵を行なうと、清への朝貢を継続していた琉球の帰属や台湾先住民の支配をめぐる日清間に論争が生じた。日本が琉球を領土に組み込んで清への朝貢を禁止し、沖縄県を設置したことは、清の危機感を高めることになった。

清が冊封体制における属国として位置付けていた朝鮮に対しても、日本に有利な不平等条約である日朝修好条規を締結（1876年）して釜山などを開港させたため、清との緊張はさらに高まっていった。1894年には日清戦争が開始され、清が敗れた結果、1895年に締結された下関条約において、清は朝鮮の独立を認め、台湾および  と遼東半島<sup>(49)</sup>を日本へ割譲することになった。

以上のように、欧米や日本によって伝統的な冊封体制が崩壊してゆく危機を背景に、清は朝貢国への支配の強化を図った。しかし、それは冊封体制を形骸化した時代遅れの秩序とみなして近代的な国際関係のなかで軍事力と経済力を背景に勢力拡大・植民地獲得を図る列強との衝突を招いた。<sup>(50)</sup>

〔設問46〕 下線部(46)に関連して、この時に清が開港させられた5つの場所に含まれないものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①上海    ②寧波    ③杭州    ④福州    ⑤厦門    ⑥広州

〔設問47〕空欄   に入る語句の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ① a 虎門寨追加条約      b 黄埔条約
- ② a 黄埔条約              b 虎門寨追加条約
- ③ a 虎門寨追加条約      b 望厦条約
- ④ a 望厦条約              b 虎門寨追加条約
- ⑤ a 黄埔条約              b 望厦条約
- ⑥ a 望厦条約              b 黄埔条約

〔設問48〕空欄  に入る語句はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ①江華島      ②マカオ      ③澎湖諸島      ④昇竜      ⑤九竜半島

〔設問49〕下線部(49)に関連して、遼東半島はロシア・ドイツ・フランスの「三国干渉」によって清に返還されたが、その後に、ロシアが遼東半島南部を租借して都市や港を建設した場所の組み合わせとして正しいものはどれか。もっとも適するものを次の①～⑥の中から一つ選び、解答欄  にマークしなさい。

- ① 威海衛 — 旅順
- ② 大連 — 膠州湾
- ③ 膠州湾 — 威海衛
- ④ 旅順 — 大連
- ⑤ 大連 — 威海衛
- ⑥ 膠州湾 — 旅順

〔設問50〕 下線部(50)に関連して、フランスは清仏戦争に勝利してベトナムに対する清の宗主権を放棄させ、1887年にはベトナムともう一つの地域を併せてフランス領インドシナ連邦を成立させたが、このもう一つの地域はどれか。もっとも適するものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 **50** にマークしなさい。

- ①カンボジア    ②ラオス    ③タイ    ④マレーシア    ⑤インドネシア